

令和7年度

助任小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的な学びにつながる、単元構想や授業の導入・展開の工夫
- 伝え合い、学びを深めることができる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 学力向上担当 教諭	委員	校長(総括) 教頭(総括補佐) 教頭(総括補佐) 教諭(教務主任) 教諭(研修主任) 教諭(国語科主任)	教諭(1学年) 教諭(2学年) 教諭(3学年) 教諭(4学年) 教諭(5学年) 教諭(6学年)

校長



【各校の取組状況の把握について】

学期に1回程度実施予定の学力向上検討委員会と各学年の授業研究会を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習について、基礎的基本的事項についての力が身に付き、学力的に高い傾向の児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られ、計算や漢字などの基礎的基本的事項が十分に身に付いていない児童が一定数いる。	・学びを広げ深める場面で活用できる知識・技能を十分に身に付けている。	・有効な授業展開を学校全体で共有し、子どもが安心して学習に取り組める環境を整える。 ・ICT 機器や思考ツールを活用し、表現に必要な知識・技能の定着を図る。そのため、ICT 機器の活用方法について校内で共有する。 ・「話す聞くセブン」を活用し、自分の考えを話したり、他者の考えを聞いたりする力を養う。	・授業展開を再確認し、子どもが学習に集中できる環境を整備する。 ・自由公開授業などを活用し、ICT機器の活用方法や指導方法について共有する。 ・「話す聞くセブン」を活用し、話し方や聞き方を振り返ることで、自分の発表の仕方を見つめ直すことができるようにする。	・全国学力状況調査では、国語・算数ともに全国平均を上回り、知識・技能習得における取り組みの成果が出てきている。有効な授業展開を学校全体で共有することで、安心して学習に取り組める環境を整えることができた。また、自由公開授業では、ICT機器や思考ツールを使った実践が見られ、学習指導の幅を広げることができた。	・自由公開授業の回数を増やし、参観する教員を増やすことで、指導力向上につなげていきたい。 ・「聞く」ことと「理解する」ことの連動性を意識し、意図することを理解しながら聞く態度の定着に取り組む。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的に応じて自分の考えをもつことのできる児童が多い。 ●自分の考えを表現し、考えを比べ、広めたり深めたりすることのできる児童が少ない。	・根拠を明らかにしながら自分の考えを発言したり、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたりしながら、自他の考えを伝え合うことができる。	・ペアやグループ及び全体といった学習形態を工夫することにより、自分の考えを説明したり友達の意見を聞いたりすることのできる場と時間を確保する。 ・学習過程に、自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりする場を位置付ける。	・学習指導部の教員を中心に、話し合う活動の形態や授業展開について共有して全体に周知し、各学年で話す聞く力を育てる活動に取り組む。	・根拠を明らかにしながら自分の考えを伝え合う活動を重ねることで、自他の考えを比べながら伝え合う態勢が整ってきた。自分の考えを伝えることができる児童は増えたが、聞く力の定着には課題がある。	・読書量を増やし、読むことを習慣化することで、思考・判断・表現の素地を築く。 ・話し合う活動の形態や授業展開、単元構想について学校全体に周知し、話す聞く場を学習過程に位置付けることにより、各学年で話す聞く力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの児童が、意欲的に学習に取り組んだり、課題を最後までやり遂げたりすることができる。 ●学習に対して参加しづらい様子や自信のない児童もいる。	・自分で課題を見つけ、楽しみながら学習に取り組むことができる。 ・既習事項を活用したり、新しい方法を見出したりしながら、意欲的に問題解決ができる。	・課題を明確にもてる授業構成を考え、ICTを活用しながら多様な学び方を展開する。 ・児童の疑問を大切にしながらめあてを設定したり、振り返りを書いたりすることにより個々の成長に気付くことができるようにする。 ・学習に参加しづらい児童に対してスモールステップの課題を設定したり、ゴールを示したりすることで、見通しをもって課題解決を図ることができるようにする。	・ICT機器の効果的な活用方法について研修を深める。 ・ふり返り活動の際、書き方の例などを提示し、学習の内容と方法の両面から自己の学びを見つめ直すことができるようにする。	・学習の振り返りに取り組む場と時間を保障することで、児童の思考がつながり、学習内容を深く理解することができた。ICT 機器を使って児童の思考をつなぐ活動にも取り組み、効果的に ICT を使用することができた。	・振り返り活動を行うことで、児童が自分自身の課題を把握し、深い学びにつながるように支援したい。振り返り活動では、振り返りの方法を提示する。考えが深まっている児童の振り返りを紹介するなどし、児童が主体的により表現する力を高める方策を工夫していきたい。

令和7年度 学力向上ロードマップ



